

みんなの環境

第20号 2009年4月1日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/

平成21年度に向けて

代表 狩野光子

「美しいふるさとを子ども達へ残してあげよう！」と11名であつぎ環境市民の会を立ち上げて、はや5年が経ち仲間も40名ほどになりました。

様々な活動しながらの5年間でしたが、毎年開催しておりました『みんなの環境展』は、20年度は第5回目を迎え、県央地域県政総合センターが記念として「県央発！環境フェスタ」を開催してくださいました。その下で、「みんなの環境展2009」を立派に開催することが出来ました。

私たちは県央地域行政センター、厚木市の協力を得ることができました。それらに加え、W・ニコル氏の講演、世界に誇る環境技術を持つ企業や大学、純真な心を持って環境学習に臨む高校生の皆様方と、共同で事業が達成できたことは、今後の活動がさらにステップアップしていく自信に繋がって行くことと思います。

私たちはCO₂を出すことで文明を築き、自然が何億年もかけて作った化石燃料を僅か200～300年で使い切ろうとしています。今や人間のもつ力は恐ろしいほどです。

このままだと、母なる大地は、人間を住むことを許さないだろうと予感がします。このことを他人事とせず現実を許容しながらも、あらゆる分野に耳を傾け、人類が生きるのびる可能性の最短の近道を探らなければなりません。将来世代に対する責任を少しでも果たすため、心の準備と市民でも出来ることを実践して参りたいと思います。会則など改めまして、さらに多くの方に仲間になって頂けますように、様々な活動を広げて参ります。

《活動内容の例・・・どれも自由参加です》

- ・食の安全・・・地元の農家との連携と学習
- ・モニタリング調査・・・NO₂の測定(年2回)、水生生物の調査(年3回)
- ・太陽エネルギー利用の啓発・・・ソーラークッカーで実践活動
- ・生物多様性の学習会・・・動植物の観察会やフォーラム開催
- ・みんなの環境展開催・・・日頃の活動発表、情報交換
- ・情報紙「みんなの環境」発行・・・イベントのお知らせやみんなの思いなど掲載予定

これまで年会費：2,000円→21年度からA会員2,000円:B会員1,000円とします。(案)
今年度は100名の仲間作りを目指して参ります。ご支援よろしくお願ひいたします。

平成21年度定時総会のお知らせ

開催日：平成21年4月7日(火) 18:00～

場 所：勤労福祉センター・ボランティアサポート室2F会議室

県央発！環境フェスタ

出展企業・学校 訪問記

<2009年1月17、18日>

インタビュアー：城菜穂子・長嶺倫子

日産テクニカルセンター

厳しい経済環境の中でも、地球環境問題を最も重要な課題と捉えているという。様々な車種の研究開発を促進し、環境変化に対応。以前はハイパー・ミニ（電気自動車）であったが、今回はクリーン・ディーゼル車を展示。



担当者から話を伺う城・長嶺

SONY厚木テクノロジーセンター

お話を伺った人：河内さん

従来は蛍光管で照らしていたものを、バックライト不使用でできる「有機テレビ」の開発がなされている。新たなものでは、ぶどう糖で発電する技術も開発されているとのこと。また工場内のパイプ設計の工夫による「省エネ型工場」も導入している。

アンリツ お話を伺った人：児玉さん

従来の携帯の電波を測るものは、大型で機動性に欠けていたが、電池で動く小型の携帯計測器を開発。また、地域貢献として「おもしろ理科実験教室」開催を通し、地域子ども達に理科や技術の面白さを伝えている。

東芝機械 相模原工場 お話を伺った人：諸角さん

製品自体の省スペース化、起動時の電力削減、金属切削くずの再利用など積極的に取り組む。

「ミルクラン方式」という、支給、集荷のルートをひとつの業者に委託し、物流コスト、エネルギー等の無駄を省く取り組みを進めている。

東京工芸大学工学部生命科学科 お話を伺った人：印丸さん

太陽光の蓄電技術のための基礎研究を行っている。例えば、パネルで集光した光を、H（水素）とO（酸素）に分け、蓄熱、科学エネルギーに変換する技術開発など。

富士通研究所 お話を伺った人：阿部さん

「Green Policy Innovation」：お客様の環境負荷をIT技術を提供することで減らそう、というポリシーの基に、省エネの製品提供は勿論のこと、値札や診察券など紙を使用せずなんども書き換えが可能な電子ペーパーの開発など様々な取り組みがなされている。

日立製作所 お話を伺った人：井上さん

車の部品の工夫に取り組む。例えば、部品を樹脂に変えられるところでの軽量化、デザインの工夫で低燃費のものへ。売れるものと技術のバランスが大切。

この機関紙にみなさんの環境への思いや情報を載せましょう。原稿は随時受け付けています

NEC（相模原事業所）

今回は製品ではなく「ものを作るのは人間」ということで、人に対する意識向上にむけての取り組みが紹介される。霞ヶ浦流域での「NEC 田んぼ作りプロジェクト」や、オーストラリアにある「NECの森」という、例えばPC2台購入で1本のユーカリが植えられるなどの取り組み等がなされている。

三機工業

「トランスヒートコンテナ」という「熱の宅配便」事業を展開中。トランスヒートコンテナとは、熱を液体化し蓄熱、それを必要な場所へ「宅配」するもの。現在は青森のホタテ養殖の現場や、某大手飲料メーカーの工場などで本技術が生かされている。また「三機自然環境園」というビオトープを80周年記念としてつくり、地域の皆様にもオープンしている。

相原高校畜産科学科

「相っこプロジェクト」として給食から出る残渣（パンくず）をなんとかできないか、という問題から、パンくずをえさとして再利用し、おいしい「卵」を生産している。地元でも販売しているようだがすぐに売り切れるほどの人気ぶりだという。また、新たな取り組みとして、段ボールを使った堆肥づくりや、津久井湖の流木を堆肥に生かすなど行っている。一年生の堀江さんは「毎日鶏などと接する中、環境のために考えること、今の問題解決に取り組むことが一番おもしろい。」と力強く語ってくれた。

リコー

従来の使用エネルギーから約87%カットしたコピー製品の開発などを行っている。また製品本体も植物由来プラスチックを使用するなどの取り組みを行っている。つまり全体として製品を作る工程においた環境への負荷削減を念頭に製品開発を行っている。

神奈川工科大学

「水素生成菌」を利用したゴミ固形燃料（RDF）からの水素生成研究を行っている。また保水性のある舗装、ブロック開発など、ヒートアイランド抑制に貢献できる技術の研究がなされている。新たに、持続可能な地球環境を構築するためには広い視野を持った知識が必要と、2009年度4月から学部・学科横断型“新”教育プログラムが始まると言う。

中央農業高校

LEDの光を利用し作物の栽培を行っている。LEDは蛍光灯の半分のエネルギーでまかなうことができる優れたもの。また光合成に光の性質が近いことが特色。また地域の特産品である杜仲の葉をつかった杜仲茶の製品開発も行っている。（とても飲みやすく美味しかったです。健康にもとてもよいとのこと！）

お話を伺った感想

ほとんどの企業や学校など、実はお名前程度しか存じ上げていませんでした。しかし具体的にどのような取り組みをしているのか直接伺い知ること、その存在をととても身近に感じることができました。そして、「私達の身近にはこんな素晴らしい企業、人たちがいるのだ。すごい！」と感動とともに、元気を頂くことができました。私達の知らない、見えないところで、「私達の地球」を守るために、様々な工夫がこらされているのですね。本当に興味深かったです。今回、お話をお聞かせいただいたご担当の皆様、どうもありがとうございました。また、いつもブースが混んでいるなど諸事情で、お話を伺えなかったブースもありました。申し訳ありません。ぜひまた次の機会にお話を聞かせて頂けるとうれしいです。

文責 長嶺倫子

生物季節を記録しよう 4月の自然

あなたの見聞きしたものを教えてください。①見たり聞いたりしたもの。②場所（市内だったら地名〇丁目ぐらいまで）③お名前・連絡先（場合によっては確認のためお訊ねする事があるかも知れません。発表する時、個人名は匿名にします。）ここに掲載するデータは、紙面の都合で取捨選択させて頂くことはお許しください。

情報はFAX（046-222-2356）またはメール（kohji.aoto@nifty.com）で青砥航次へ。

みんなの環境 20号 2009年4月1日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 狩野光子

電話/FAX 046-224-5010 e-mail: mitsuko-karino@ayu.ne.jp

制作 長岡 恂 e-mail: jun.nagaoka@nifty.com

事務局 〒243-0817 厚木市王子2-14-3 山中延明 方

電話/FAX 046-224-9693 e-mail: ANA40480@nifty.com

郵便振替口座 00200-7-132779 （年会費 2000 円）

©あつぎ環境市民の会 2009